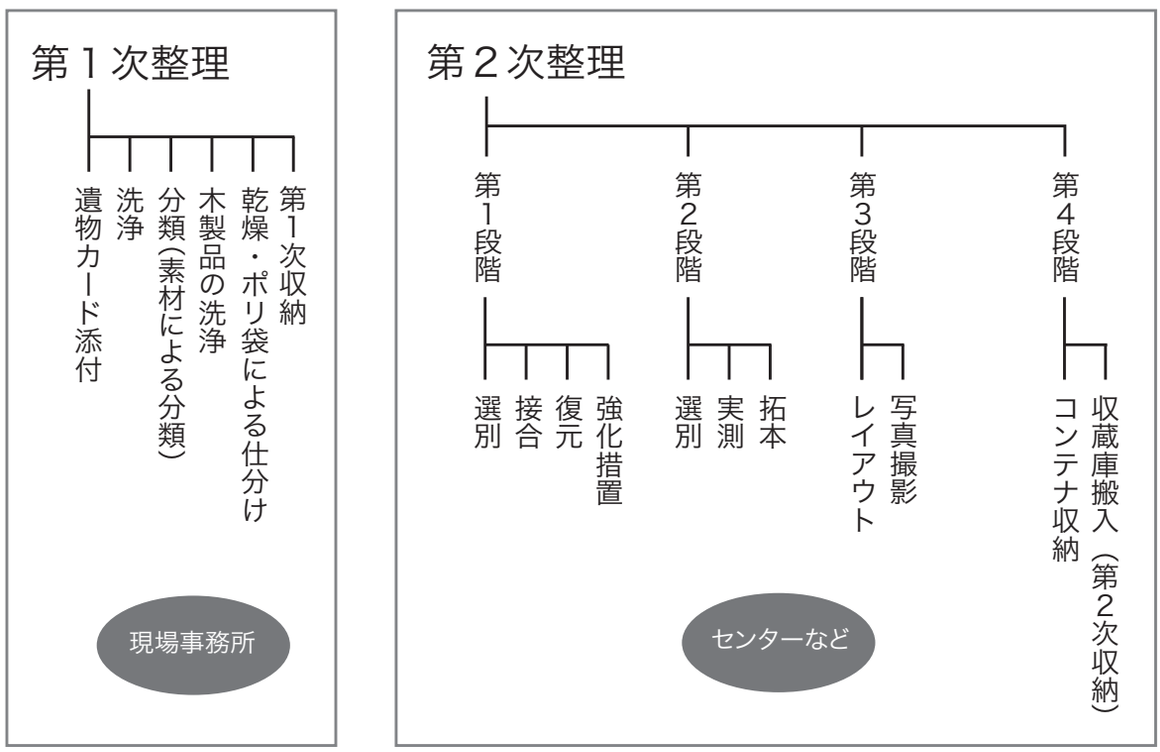
2

整理作業編

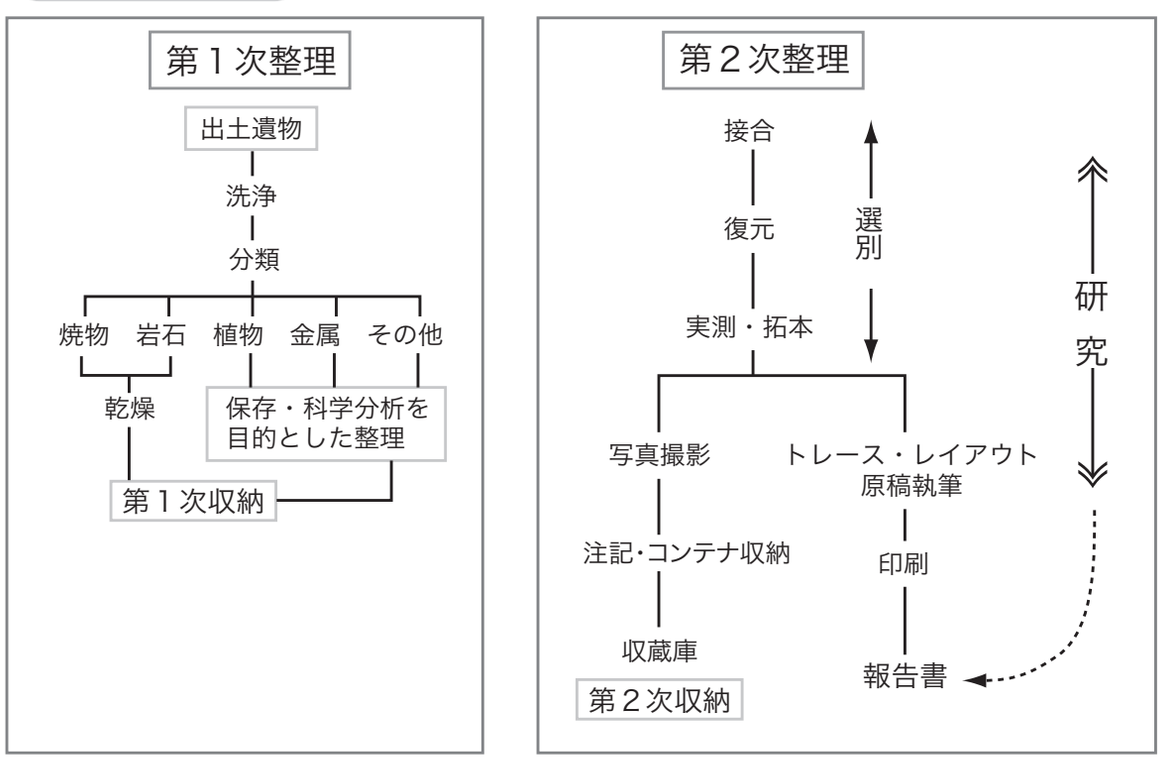
A 遺物整理の方法

第１次整理（現場事務所で実施を前提）と第２次整理（調査センターなどで実施）。

整理作業の区分



整理作業の流れ



B 第１次整理（発掘調査業務）

→てびき（整理）P.12-14・16

遺物を水洗にて洗浄する。
付着物・内容物や墨書・彩色などの表面状況に注意しながら土を落とす。
破損のおそれがある場合は、整った体制と場所で洗浄しなければならない。
●焼き物・石器は、十分な乾燥を行う。
●木製品は、乾燥防止の梱包もしくは水漬けで保管する。
　素材で分類（焼物→土・木製品→木・石器→石）。

コンテナ収納（第１次収納）。
遺物はチャック付きビニール袋（厚さ 0.08mm 以上のもの）に出土情報等を記したユポ紙と同梱してコンテナに収納。
木製品・金属製品など脆弱遺物については一覧表（下図）を添えて搬入する。

a 報告書作成のための整理作業



遺物水洗作業（室内）



遺物水洗作業（屋外、木製品）

木器番号	器種名	調査区	グリッド	遺構・層位	取り上げ番号	日付	長（cm）	幅（径）	厚（高）	観察	木取り	時期	樹種	ランク

脆弱遺物（木製品）一覧表フォーマット

報告書用遺物番号	実測番号	製品名	調査区	グリッド	遺構番号	取上げno.	X	Y	Z	長さ cm	幅（直径）cm	厚さ（器高）cm	樹種	木取り	年輪数 本	年輪幅 cm	最外周の推定年輪数 本	年輪最外周の推定直径 cm	所属時期	ランク
1394	001	木簡	00A	DCH5j	埋土1群	32	−121810.802	−6257.804	5.688	(25.8)	2.5	0.7	ヒノキ	板目	4	0.2			古代	A
1403	012	曲柄二叉鍬Ⅰ類 刃部	00A	WH20i	埋土5群	328	−121799.99	−6256.817	4.837	(37.9)	(5.0)	2.8	クヌギ節	柾目	33	0.1～0.2			八王子古宮	A
1404	002	木製甲（彩色）	00A	DCH2i	埋土5群	302	−121809.397	−6256.87	4.995	(20.1)	(11.1)	1.8	トチノキ	追柾目	19	0.3～0.5			八王子古宮	A
1405	015	曲柄四叉鍬D類	00A	DCH2i	埋土4群					(45.1)	(4.4)	(2.8)	アカガシ亜属	柾目	14	0.3			山中～扇間	A
1406	023	木錘	00A	DCH2i	埋土4群	305	−121804.25	−6257.45	5.222	20.6	6.3		クワ属	芯持丸木（面取り）	7	0.2～0.3	7	6.3	山中～扇間	A
1407	082	柱ウ（抉り有）	00A	DCH2i	埋土4群	298	−121806.672	−6257.649	5.469	(48.3)	12.4	(9.0)	ヒノキ科	分割1/4	62	0.08～0.2	約100	24.5	山中～扇間	B
1408	101	杭	00A	WH19i	埋土4群	312	−121792.757	−6259.518	5.096	(74.1)	4.3		マキ属	芯持丸木	25	0.1	25	4.3	山中～扇間	A
1409	102	杭	00A	WH19i	埋土4群	344	−121791.281	−6260.336	5.14	(43.4)	3.7		マキ属	芯持丸木	10	0.15	10	3.7	山中～扇間	A
1410	130	杭	00A	WH18i	埋土4群	319	−121785.45	−6260.123	5.083	39.0	2.2		マキ属	芯持丸木（樹皮付）	24	0.05	24	2.2	山中～扇間	B
1411	103	杭	00A	WH17h	埋土4群	356	−121784.414	−6260.594	4.709	(84.8)	11.3		クリ	芯持丸木	16	0.15～0.4	16	11.3	山中～扇間	A
1412	129	丸太（杭ウ）	00A	WH18i	埋土4群	318	−121786.157	−6259.569	5.108	(123.9)	3.0		マキ属	芯持丸木	13	0.1	13	3.0	山中～扇間	B
1413	132	丸棒	00A	DCH3i	埋土4群	327	−121812.29	−6256.926	4.704	(121.9)	2.8		マキ属	芯持丸木	8	0.1～0.3	8	2.8	山中～扇間	B
1414	131	丸棒	00A	WH19i	埋土4群	322	−121793.058	−6259.405	4.98	28.5	2.3	1.9	ヒノキ	分割1/4（面取り）	9	0.25	33	16	山中～扇間	B
1415	285	丸棒	00A	WH17i	埋土4群	351	−121782.997	−6259.719	4.913	20.3	5.1	4.8	ブナ属	分割1/4（面取り）	5	0.9	10	17.6	山中～扇間	B
1416	286	丸棒	00A	WH19i	埋土4群					9.7	2.9		サカキ	芯持丸木	10	0.1	10	2.9	山中～扇間	B
1417	221	角棒	00A	DCH2i	埋土4群	304-2	−121807.832	−6256.519	4.991	(15.5)	(4.7)	3.8	クリ	分割1/4（面取り）	13	0.15～0.35	27	13.6	山中～扇間	B
1418	223	角棒	00A	DCH7j	埋土4群					(39.5)	2.7	1.5	ヒノキ	分割1/4（面取り）	9	0.15			山中～扇間	B
1419	176	穿孔板	00A	DCH7j	埋土4群					(27.4)	6.7	1.4		板目	16	0.05～0.1			山中～扇間	B

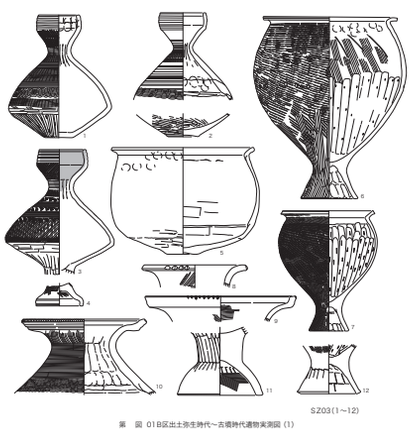
木製品一覧表作成例

C 第２次整理（報告書作成業務）

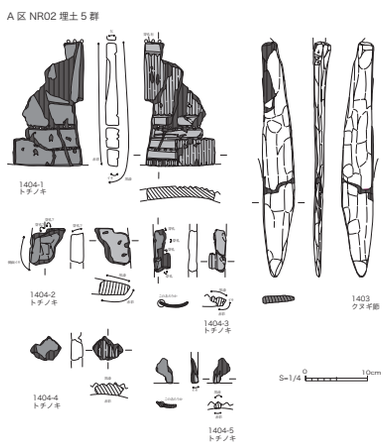
→てびき（整理）P.17-

必要資料の選別・接合・復元・実測・撮影を行う。
遺物の観察・実測図作成は、『てびき』整理・報告編による。
整理された遺構データと遺物データから、遺構の時期特定や変遷などの分析。
遺物写真撮影はセンター内写場でおこなう。
遺物写真もデジタルデータで保存 JPEG か TIFF 形式（画像データは撮影時のもの）。

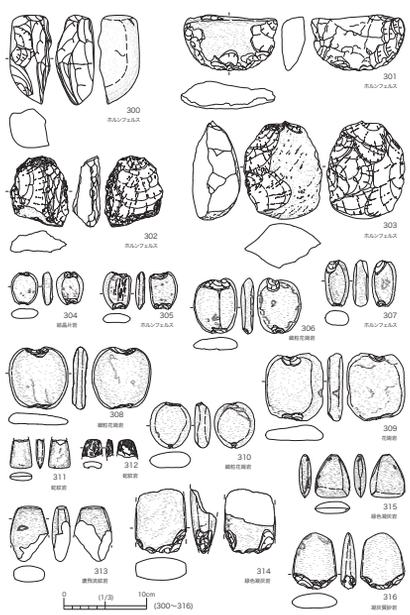
→てびき（整理）P.132-



弥生土器の実測図版



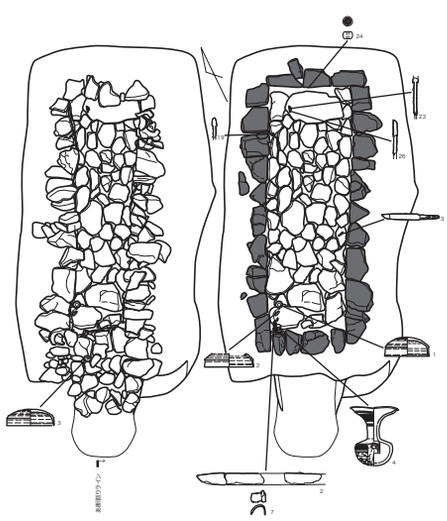
木製品の実測図版



石器の実測図版



掲載遺物の撮影（3 階写場）



石室内の遺物出土位置図版

b 遺物の収納

遺物に登録番号を注記する。
遺物は、報告書掲載や活用の幅などによって分類され（分類 A ～ D)、台帳を作成し、分類ごとに登録番号順でコンテナ収納する（第2次収納)。

収納の方法

コンテナ収納
１：土器・石器等、材質により区分し収納する。
２：報告書で遺物登録番号が示された遺物については、原則としてその番号順に収納する。
３：圧縮収納に努めるなど、極力効率的な収納を行う。
４:報告書単位で、A・B・C１・C２の類別順にコンテナ箱または梱包単位に一連の番号（コンテナ番号）をつけ、ラベル表示する。

収蔵庫への収納
１：報告書単位に類別収納を行う。
２：コンテナ番号は、報告書単位の連番とする。
３：コンテナ箱の収納の順序は、類別区分に従いA・B・C１・C２の順とする。
４：収蔵庫でのコンテナ箱の配列は、原則としてコンテナ番号順とする。

遺物の登録記号と収納場所

表記は黒

焼き物一般	E	収蔵庫 D
石製品	S	収蔵庫 D
ガラス製品	G	収蔵庫 D
木製品	W	特別収蔵庫
金属製品	M	特別収蔵庫
その他	X	収蔵庫 D・特別収蔵庫　Xb- 骨　Xs- 貝

収蔵のための分類

保管・活用については、『愛知県教育委員会が管轄する出土遺物の収蔵・保管・活用の在り方について』平成 10 年　埋蔵文化財収蔵問題検討会に基づく。

分類A
考古学的な資料価値が高く、展示・公開等に活用される遺物。
これらは、次の分類Bの資料のうちの一部に該当する。
分類B
調査報告書に個別資料として掲載され、登録番号が付された資料。
分類C
上記A・B区分以外で一定程度の情報量を有する資料。活用の可能性からC１・C２に細分する。
C1：遺構内出土品。遺構外出土品のうち研究対象資料（土器の口縁部、底部、文様のある破片など、一定程度の情報を有する資料)、大量生産品・遺構素材等（近世の瓦・古窯の焼台等）のうちのサンプル抽出資料、自然遺物（貝塚の貝・食料残滓等）のうちのサンプル抽出資料等。
C2：遺構外出土品のうち、研究資料としての活用の可能性が低いと判断される遺物。大量生産品・遺構素材等のうちのサンプル以外の資料。
分類D
整理作業の過程で、研究資料として活用しえないと判断された遺物。例えば、摩耗した土器片、変形等で形状の判別ができない木製品など、出土品自体あるいは出土状態等からも、時期・性格等が推定不能で、研究資料として活用しえない遺物など。サンプル以外の自然遺物等。

基本台帳　入力シート例

第 239 集　郷中遺跡

箱番号	集番号	遺跡名	調査区	登録番号	種別	調査区	遺構	区分	収納場所	保管配置	梱包形態	梱包サイズ	備考（作業時整理番号）
1	239	郷中遺跡	22Ab	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26	E			B	収D		C	28	
2	239	郷中遺跡	22Ab	27/28/29/30/31/32/33/34/35/36/37/38/39/40/41/42/43/44/45/46/47/48/49/50/51/52/53/54/55/56/57/58/59	E			B	収D		C	28	
3	239	郷中遺跡	22Ab	60/61/62/63/64/65/66/67/68	E			B	収D		C	54	
4	239	郷中遺跡	22Ab	69	E			B	収D		B		
5	239	郷中遺跡	22Ab	70/71/72/73	E			B	収D		C	54	
6	239	郷中遺跡	22Ab	74/75/76/77	E			B	収D		C	28	
7	239	郷中遺跡	22Ab	78/79/80/81/82/83/84	E			B	収D		C	54	
8	239	郷中遺跡	22Ab	85/86/87/88/89/90/91	E			B	収D		C	28	
9	239	郷中遺跡	22Aa/22Ab/22Ac/試掘調査	92/93/94/95/96/97/98/99/100/101/102/103/104/105/106/107/108/109/110/111/112/113/114/115/116/117/118/119/120/121/122/123/124/125/126/127/128/129/130/131/132/133/134/135/136/137/138/139/140/141/142/143/144/145/146/147/148	E			B	収D		C	28	
10	239	郷中遺跡	22Aa/22Ab/22Bb/22Bc/23A	201/202/203/204/205/206/207/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234	E			B	収D		C	28	
11	239	郷中遺跡	23A/23B	235/236/237/238/239/240/241/242/243/244/245/246/247/248/249/250/251/252/253/254/255	E			B	収D		C	28	
12	239	郷中遺跡	22Aa/22Ab/22Ac/22Ba	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26/27/28/29/30/31/32/33	S			B	収D		C	28	
13	229	郷中遺跡	22Aa	1	M			B	収D		C	15	
14	239	郷中遺跡			E	試掘調査/22Aa/22Ab	試掘調査-1TSK1+1T3層+1T6層+1T7層/22Aa-001SK+018SK+包含層/22Ab-073SK+084SK+085SK+086SI	C1*			C	28	縄文（仮105/106/107/108/109/111/112/113/114/115/122/125/128/131/132/133/134/136/138/139/140/142/145/148/149/150/151/152/153/154/155/156/157/158/159/160/161/162/163/164/165/166/167/168/169/170/171/172/173/174/175/176/179/180/181/182/183/185/186/187/188/189/190/193/195/196/197/198/199/200/201/202/203/204/205/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234/235/236/237/238/245/246/247/248/249/250/253/254/257/259/260/602/603/604/605/606/607/608）dot付き含む
15	239	郷中遺跡			E	22Ab	086SI/087SD	C1*			C	28	縄文（仮261/262/263/264/265/266/267/268/269/270/271/272/273/274/275/276/277/283/284/287/288/290/291/292/293/294/295/296/297/298/299/300/301/302/303/304/305/306/307/317/318/319/320/322/323/324/325/326/327/328/329/330/331/332/333/334/335/336/338/343/345/346/347/348/349/350/351/352/353/354/355/356/357/358/359/360/361/363/367/368/369/370/376/377/378/379/380/381/382/386/388/389/390/391/392/393/394/395）
							22Ab-						縄文（仮119/396/397/398/399/400/401/402/403/405/407/408/409/410/411/412/413/414/415/417/418/419/420/42

＜入力にあたっての注意事項＞　英数字・記号は半角で入力すること（「※」を除く）

箱番号	
集番号	1冊の報告書に複数の遺跡を掲載する場合も区別は不要。（番号の後ろにA・B・C…等を追記しないこと。）
遺跡名	報告書の題名が『○○遺跡Ⅱ』や『○○遺跡Ⅴ』の場合も「○○遺跡」と記入。 また、1冊に複数の遺跡が収録されている場合はその箱に収納されている資料の出土遺跡名を記入。
登録番号	番号と番号の間はスラッシュ「/」で区切り、全ての番号を記入すること。（「1～10」のように省略しないこと。）
種別	E/S/W/M/Xのいずれかを記入。＜土器：E、石器：S、木製品：W、金属製品：M、その他（骨、ガラスなど）：X＞
調査区	省略可。
遺構	
分類	A/B/C1※/C1/C2のいずれかを記入。（「C1※」の「※」表記に注意すること。「＊」「★」など、「※」以外の記号は不可。）
収納場所	収D/特収/常滑のいずれかを記入。 ＜収D：収蔵庫D、特収：特別収蔵庫、常滑：元常滑高校＞のうち、実際に収納する場所を記入。
保管配置	空欄。（調査センターにおいて場所を確定後に記入）
梱包形態	C/B/W/Xのいずれかを記入。 ＜C:コンテナ、B:プラスチック段ボール箱、W:木箱（特別収蔵庫の木製品用）、X:その他（箱に収納できないもの）＞
梱包サイズ	「梱包形態」欄が「C」（コンテナ）の場合に、コンテナの容量（ℓ換算）を記入。
備考	・報告書に図版は掲載されていないが一覧表には掲載されているもの（C区分）については、収納先がわかるように記入（一覧表の掲載場所（報告書・添付CD・HP）、表の番号等の情報）すること。（上記記載例参照）また、A・B区分と同様に、収納袋内に表の番号を記載したカードを入れておくこと。（例：「報告書掲載　表21-13」「添付CD掲載　出土品一覧表-14」） ・研究紀要等に掲載した場合はこの欄に記載すること（例：「研究紀要○号掲載　（執筆者苗字）（発行年）　表1-1/2」）。この場合も収納袋内に図表の番号を記載したカードを入れておくこと。（例：「研究紀要○号掲載　（執筆者苗字）（発行年）　図1-1」）。 改行する場合は、スペースキーではなく「Alt」キーと「Enter」キー同時押しで改行すること（スペースキーを押しての改行は見かけ上の改行であるため）。

「令和8年2月25日付け7埋調第159号通知（愛知県埋蔵文化財管理要綱に基づき、愛知県埋蔵文化財調査センター所長が管理する出土品の取扱いについて）」より

個別資料台帳　入力シート例

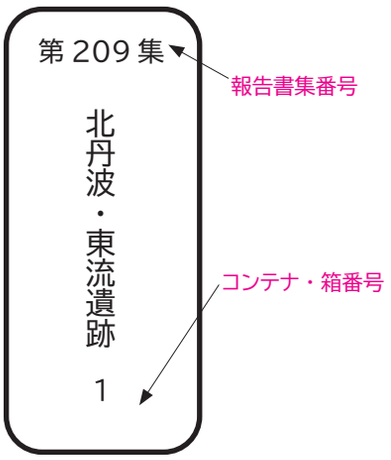
個別資料台帳（新様式）【記載例】

種別	登録番号	箱番号	時期	器種	分類	集番号	遺跡名	図版番号（図版）	図版番号（番号）	その他図版（図版）	その他図版（番号）	報告書	梱包形態	梱包サイズ	収納場所	保管配置	法量A	法量B	法量C	遺存率	遺構	調査年度	調査区	グリット	材質	分析	保存処理	備考
E		1	縄文	深鉢	B	999	○○遺跡	図21	1	写真図版10	1	○○遺跡Ⅱ					30	13	35	90	01SI	2025	25A	種A1a		放射性炭素年代測定（非破壊）		
E		2	縄文	深鉢	B	999	○○遺跡	図22	2	写真図版11	2	○○遺跡Ⅱ					20	9	30	60	01SI	2025	25A	種A1a				
E		3	縄文	深鉢	B	999	○○遺跡	図22	3	写真図版11	3	○○遺跡Ⅱ						5	10	30	01SI	2025	25A	種A1a				
																	～											
S		4	縄文	石鏃	B	999	○○遺跡	図27	4	写真図版17	4	○○遺跡Ⅱ					1.5	1.1	0.5	100	01SI	2025	25A	種A1a	安山岩			
W		4	縄文	柱材	B	999	○○遺跡	図28	1	写真図版18	1	○○遺跡Ⅱ					23(長軸)	16(短軸)			01SI	2025	25A	種A1a	クリ	樹種同定（破壊）	1/PEG/センター内	
E		5	縄文	深鉢	C1※	999	○○遺跡	表21	13			○○遺跡Ⅱ					8(長軸)	4(短軸)	0.6(厚さ)		01SI	2025	25A	種A1a		胎土分析（破壊）		
E		5	縄文	深鉢	C1※	999	○○遺跡	出土品一覧表	14			○○遺跡Ⅱ					5(長軸)	3(短軸)	0.5(厚さ)		01SI	2025	25A	種A1a				
																	～											

＜入力にあたっての注意事項＞　英数字・記号は半角で入力すること（「※」を除く）

種別	E/S/W/M/Xのいずれかを記入。＜土器：E、石器：S、木製品：W、金属製品：M、その他（骨、ガラスなど）：X＞
登録番号	A・B区分のみ記入。
箱番号	1点につき1行で記入。複数行に記入してセルを結合はしないこと。
時期	旧石器/縄文/弥生/…と、大まかな時期を記入。型式や世紀を記入しないこと。
器種	深鉢/壺/甕/山茶碗…と、大まかな器種名を記入。（注：「○○式○○」等詳細な記載は不要。）
分類	A/B/C1※/C1/C2のいずれかを記入。（「C1※」の「※」表記に注意すること。「＊」「★」など、「※」以外の記号は不可。）
集番号	1冊の報告書に複数の遺跡を掲載の場合も区別は不要。（番号の後ろにA・B・C…等を追記しないこと。）
遺跡名	報告書の題名が『○○遺跡Ⅱ』や『○○遺跡Ⅴ』の場合も「○○遺跡」と記入。
図版番号（図版）	図の名称とその番号を記入。（例：図1、1図、第1図、図版1…等） 一覧表にのみ掲載されているものについても同様に記入。（例：表1、表1－1、出土品一覧表…等）
図版番号（番号）	「図版番号（図版）」欄の図等に番号が付されていない場合は、次による。 ①掲載遺物が1点の場合は空欄、②複数の遺物が掲載されている場合は、上下左右などの方向で示し、図と対応できるようにすること。
その他図版（図版）	「図版番号」欄に記入したもの以外で報告書に掲載の図版・表等がある場合に記入。複数ある場合は写真図版を優先する。
その他図版（番号）	
報告書	報告書の題名を記入。（例：○○遺跡Ⅱ）
梱包形態	省略可。
梱包サイズ	
収納場所	
保管配置	
法量A	省略も可能とするが、その場合は台帳とあわせて法量を記載したデータ（Excel又はCSV形式）を提出すること。 基本的には、E（土器）はA：口径、B：底径、C：器高、S（石器）はA：長軸、B：短軸、C：厚さとする。 底部のみが残存する土器のように、計測できない項目がある場合は空欄も可。 分類がW・M・Xの場合及び、E又はSの場合でもこの測定方法がそぐわない場合は、数字の後にかっこ書きで測定場所を記入。
法量B	
法量C	
遺存率	10%刻みで記入。
遺構	遺物カード（ユポ）及び注記と一致する内容を記入。（調査年度は西暦） 複数の遺構・調査年度・調査区・グリットにまたがる場合はスラッシュ「/」で区切って記入。
調査年度	
調査区	
グリット	
材質	S（石器）は石材（例：安山岩・黒曜石）、W（木製品）は樹種（例：クリ・カシ）、M（金属製品）は使用素材（例：青銅・鉛）、X（その他）は詳細（例：ガラス・魚骨）を記入。
分析	報告書執筆に伴い実施した科学分析の種類を記入。かっこ書きで破壊分析か非破壊分析かも明記。
保存処理	W（木製品）、M（金属製品）について、処理番号と保存処理の種類、実施機関（「センター内」か外注先の名称）をスラッシュ「/」で区切って記入。
備考	

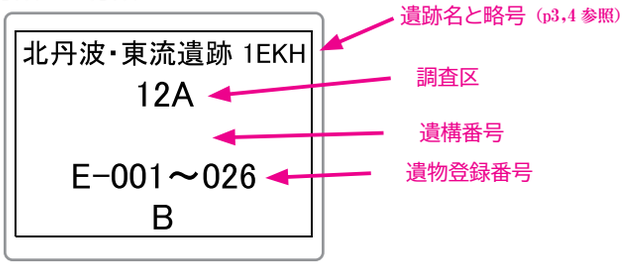
収納箱貼付カード



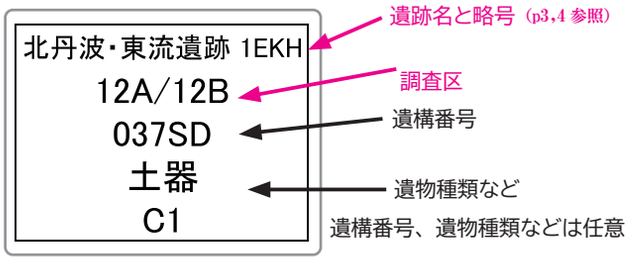
＊貼り付けカードも内容カードも
印字はすべて黒
＊貼り付け場所は、正面右側

収納箱貼付内容カード

A 分類・B 分類



C1 分類・C2 分類・D 分類

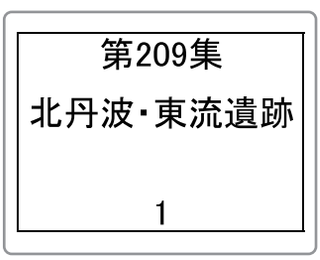


収納箱 内容カード

1面（貼付内容カードと同じ）

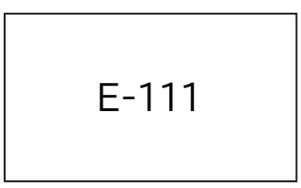


2 面（箱番号カードと同じ内容）



＊１面と2面を裏表にして、パウチしたものを、箱内に遺物と供に収納。
＊シールの破損・紛失時に対応するためのもの。

土器袋同包番号カード



＊登録番号を確認するための番号カード
土器と一緒に袋に入れるもの。
＊紙質と印字方法は問わない。
が、退色防止のため、色は黒。

移管準備（センター外）



＊台車の列ごとに内容（集番号，遺跡名，
C1 ※,C1,C2）がわかるようにする。
＊台車の列ごとに、最上段を蓋で覆う。



リフト付きトラック
（パワーゲート車）



トラック進入準備
（作業：運送会社）